

第3回狭山市協働推進委員会会議録

開催日時 令和6年3月15日（金） 午後1時30分から午後4時30分まで
開催場所 中央公民館 第2ホール
出席者 狭山市協働推進委員会委員 9名
各提案事業の団体・担当課の職員・傍聴者（職員・市民等）
事務局 自治文化課 課長、主幹、主事補

1 開会

2 委員長あいさつ

今年度最後の委員会となるが、来年度の提案事業の審議、評価をお願いする。
この提案型協働事業の中で、事業を行った犯罪被害者等支援の会「オリーブ」の佐藤咲子さんが、この度、荻野吟子賞をいただき、県から表彰された。これも、協働事業を推進してきた結果が結びついたものであると思っている。

3 議題 令和6年度提案型協働事業2次審査

○令和6年度提案型協働事業について事務局より説明

（【提案制度審査要領】・【令和6年度提案型協働事業一次審査結果一覧】参照）

提案事業9事業（市民提案型協働事業7事業・行政提案型協働事業2事業）のうち、7事業（市民提案型協働事業5事業・行政提案型協働事業2事業）は、1次審査を通過した。

1事業は、1次審査において不採択となり、1事業は、生徒による企画になることから、新年度になってから提案・審査となる旨説明。

○各事業のプレゼンテーション

（【二次審査タイムスケジュール】・【各事業の提案書一式・パワーポイント資料】参照）

《市民提案型》

・おさがり交換会（新規）

環境保全の一環として、リサイクル及びリユースを自然と行うことができる機会の提供及び育児中の保護者の居場所づくりを目的として、サイズアウトした洋服等を持ち寄り、譲り合える「おさがり交換会」を実施する。

委員）交換できないものは、どのように処分されるのか。

団体）ニーズと合致しないものは仕分けし、布や紙としてリサイクルする。

委員）市と子育て支援がつながる場はどのようなことをイメージしているのか。

団体）子育て世代へアピールの機会を作ってもらったり、おさがり交換会の場所が広くなったりすることで、より取組が広がると考えている。

協働で行うことで、他の団体等が行っていることを知ることができ、他の団体等の取組と一緒にやっていくことが増えていくのではないかと考えている。

委員) 補助金を3年間もらった後は、どのように考えているのか。

団体) すでにおさがり交換会は3年間行っているので、今までの流れで事業自体はでき、今はスペースの面で市と協働で行いたいと考えており、資金は問題なく今後も行えると思う。

委員) 予算書で自己資金が少ないが、団体の持ち出しで行っていたのか。

団体) 団体の母体がお弁当宅配を行っており、補助金をいただいているのでそのメンバーとして活動しているが、ここでおさがり交換会の事業として補助金をいただけるのであれば、その中で人件費を計上したいと考えている。

委員) 要望であるが、単なる交換会としてだけではなく、コミュニティの場として続けていけるようにしていただきたい。

団体) 子育てを終わられた方々からもお子さんが使っていた物を持ってきていただき、世代を超えて繋がっているのも、今後も物だけでなく、心のつながりも広げていきたいと考えている。

・にじいろ体操教室 (2回目)

発達の凸凹がある子、障がいのある子、グレーゾーン、大病してリハビリしている子たちが、きょうだい児とその保護者が一緒に通える体操教室やイベントを行う。

委員) 参加費の金額について妥当であるとか、無料にするなど検討したか。

団体) 突発的に動く子の対応には、多くのスタッフが必要であるため、人件費に充てられる参加費は、今後も必要である。

委員の皆さんには、どのようなことをこの事業で行っているか見学に来てほしい。

委員) 兄弟と一緒に参加でき、お母さんの働く場として、社会性の場のスタートの環境を作るのはよいことである。次のステップにつながるとよい。

・人生100年時代の音楽健康レクリエーション「ヨッコラショーズ」 (2回目)

高齢者が楽しみにして定期的に出向く場の提供を行い、音楽の力で高齢者の健康寿命の維持、向上の一助に資する活動を行う。

委員) 今年度の寿荘での事業は？

団体) 歩けない高齢者がバスで参加できるということで、寿荘を計画したが、利用される方が少なく、新狭山公民館を中心に行った。

委員) 今後、補助金がなくても自走できるか。

団体) 生演奏のピアノで行うことが重要であるため、講師謝礼金は必要であり、現在の参加費の金額をあげるということも参加者は納得してくださるので、続けていける予定。

・狭山市探訪ウォーキングマップの制作 (2回目)

生涯学習の視点で、狭山市の歴史・文化などに親しむツールとして活用できるような狭山市の史跡旧跡や文化財などを巡るウォーキングマップを制作し、市内外の人が狭山市を探訪してくれるように広報し、ウォーキングイベントを実施する。

委員) 2期目の構想と1期目の反省などはあるか。

団体) マップを作っている過程で狭山の魅力を改めて発見した。今後、この魅力を市内外へどのように発信すべきか検討する必要があると考えている。

委員) 事業の継続性は？

団体) マップを3年かけて作り、イベントを開催し、参加費を取って行うとともにスポンサー等の協賛費をいただき、続けていきたいと考えている。

委員) 電子媒体でマップを周知していくときに、大きな媒体とつながることを考えているのか。

団体) 電子媒体の場合、一旦載せたら戻せないことや、著作権もあるため、基本的には狭山市で作ったデータを掲載し、他のデータを使う際には承諾を得るなど、気を付けながら、使えるものは使っていく予定である。

委員) マップができた後、体験型のイベントなどと連動して行えるとよいのでは。

団体) マップ単独で行っても限りがあるため、活動されている方と協力しながらやっていきたい。

・ イベント型子どもの居場所づくり事業 (新規)

毎月1回、主に中学生を対象に「何もしなくてもいい」をコンセプトにした居場所を開催し、また、隔月でイベントを企画・開催する。事前にボランティア募集とともに子どもとの接し方講習会を開催する。

委員) 何もしなくてもよい居場所づくりはどんなところから発想があったのか。

団体) 今ある居場所のカテゴリー(こども食堂、学習支援、プレイパーク、フードパントリー)は、何かをするための場であるから、何もしなくてもよい場が必要なのではないかと考えた。どのような子どもでも休める場、休憩場所を考えた。

委員) 子どもが子どもらしくとはどんなイメージか。

団体) 現在の子供たちは大人びていて、律儀でいい子が多い。子供のうちにいい子過ぎることはないのではないかと思い企画した。

委員) 何もしなくてもいいと言っているのにイベントは多いのは？

団体) この場所があるということ、初めての子には何をやっているのかハードルが高いと思うのでイベントを通じて来やすくし、イベントに参加したくない子も想定されるので、イベントは隔月としている。

委員) この活動の場所は公民館以外も今後想定しているか。

団体) 今は公民館を考えている。本来、このコンセプトは月1回ではなく最低でも4回とか、毎日いける場所を作るのが良いと考えているが、この事業では、子どもとの関わり方のノウハウの蓄積、周知などを考えている。別に団体の活動として、市内の色々な場所に子どもを受け入れ、休憩できる場所を作りたい。この事業の何もしなくてもいいという事業がどれくらい受け入れられるのかを知りたい。

委員) 保険料が毎回15名で、人件費は5名となっている。参加者は10名程度を想定しているのか。もう少し来るのでは。

団体) イベントは10名から15名を想定しているが、通常の際は未知数であり、1回あ

たり10名ぐらいを想定している。参加者人数が重要な指数ではないと考えている。

委員) 何もしなくてもいい場所を求めている子とこのイベントがきっかけになる人と分かれてしまうのでは。

はっきりした枠では救えない部分の子たちにどのように周知していくのか。

団体) イベントは、月1回開催するということを指している。

チラシ等にはイベントという言葉は入れずに作成する予定。

周知の方法として、チラシを市内の中学校と一部高校に配布し、SNSで告知する。

その他、今つながりのある子からの情報発信で周知していきたい。学校に行けていない子にアプローチの仕方は難しいので、まずは、周知できる子のところから始める予定。

《行政提案型》

・集まれ、オンラインしゃべり場 (2回目)

様々な問題を抱える青少年の為の話せる場としてチャットを開設し、子育ての問題を抱える保護者にはオンラインサロンを開設する。課題解決に向け行政、団体等と連携を図り、支援に繋げる。

子どもたちが抱える問題に対する理解を深め、支援につなげていくため、市民を対象とした講演会や研修会を開催する。

委員) なぜ Discord を選んだのか。

団体) Discord は匿名性が高い。line は匿名性が低く、危険であり、日本のチャットは少ない。Discord はゲームやビデオ通話ができ、緊急な場合にズームで対応することができる。いろいろなアイテムを使い会話ができ、無料である。

子どもたちの意見を管理者だけ見ることができ、行政に繋げることができる。

24時間体制で対応することは難しいため、チャットで相談を受け、AIが回答し、相談の回答が遅れることも説明ができる。

委員) 危険性はないのか。

団体) 利用規定があり、禁止事項がある。管理者(大人)がきちんと管理するため、規約から外れるのであれば退会するよう進めることができる。

NPOが管理者として管理しているので、採択されたら安心して話せる場所としてチャットを公開したとPRしていきたい。

委員) チャットは開設されたのか。

団体) チャットは作ったが、現在書き込みは中止している。来年度の採択が決定しないと管理・運営できないので、採択が決定してからオープンし、ORコードの載ったカードを作成し、周知していく予定。

委員) 社会と子どもたちのリアルなつながりは想定しているのか

大人との信頼関係がなければリアルな相談には進まないの、チャットで相談された中で、本人の承諾を得て、ズームでつながることから始めることが必要だと考えている。

・災害時に活躍するアマチュア無線ネットワークの構築（新規）

大規模災害時に携帯電話などの通信ネットワークが利用できなくなった場合に備え、狭山市内の無線従事者、団体が参加できるネットワークを構築し、有事の際に備え、平時より情報交換のための通信訓練、ネットワーク拡大イベントの開催、勉強会を行う。

また、70周年記念事業に向け、70周年記念局を通じて狭山市の魅力を全国に発信するとともに、交信した距離や感度等のデータ収集を行い、有事に備える。

委員) 委託事業で今後の4月から開始するにあたり、委託料はどのように使うのか。

団体) 機器を導入し、イベントを開催する際に必要な広報紙等を計上している。

ボランティアを活用してイベントを行っていく予定。

委員) 電波はどれくらいの距離まで飛ぶのか。機器はいくらか。

団体) 知識があればあるほど飛ぶと認識している。

機器は小さいものは1万5千円程度からになるが、最終的には公民館に備えて通信を行うなどしていきたいと考えている。

7 閉会（副委員長）

狭山市のために考えている事業の提案を見せてもらった。7つのうち3つが子どもたちへの取組で、その事業が狭山市の子どもたちの糧となり、その子どもたちが成長し、狭山市をますます発展させてくれるのではないか。他にも狭山市の魅力を高めるマップ作りや防災の事業、高齢者のための事業など狭山市をよりよくするためのいい事業を見せてもらい、良い時間を過ごさせてもらった。

配布資料

次第

令和6年度提案型協働事業2次審査タイムスケジュール

各事業の提案書一式・パワーポイント資料

（市民提案型協働事業5事業：行政提案型協働事業2事業）

令和6年度提案型協働事業審査会審査表

・採択予定事業一覧（全7事業）

市民提案型協働事業（5事業）

No	事業名	提案団体	担当課
1	人生100年時代の音楽健康レクリエーション 「ヨッコラショーズ」	童謡を歌う会 そよ風	高齢者支援課
2	にじいろ体操教室	一般社団法人 mama's community	障がい者福祉課
3	狭山市探訪ウォーキングマップの制作	NPO 法人さやま生涯学習 をすすめる市民の会	社会教育課
4	おさがり交換会	こそだて支援 comono	環境課 奥富環境センター
5	イベント型子ども居場所づくり事業	AKTO	こども支援課

・行政提案型協働事業（2事業）

No	事業名	提案団体	担当課
1	集まれ、オンラインしゃべり場	NPO 法人地域教育 ネットワーク	こども支援課
2	災害時に活躍するアマチュア無線 ネットワークの構築	災害時情報通信ネット ワーク準備会	危機管理課